

不死のベニクラゲと早死のカイヤドリヒドラクラゲ

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
久保田 信

クラゲ類中で特異な一生を送るベニクラゲ *Turritopsis* spp.とカイヤドリヒドラクラゲ *Eugymnanthea japonica* Kubota の対照的な生活史を比較説明した。



老化やストレスで衰弱したいかなるクラゲも、全ての多細胞動物と同じく必ず死亡する。ところがベニクラゲは死なず、成体でも未成熟でもクラゲは若いポリプにもどれる。若返れたポリプはまた成長してクラゲになるが、若返りは何度でも繰り返せる能力があり、演者は、本年、この世界記録を達成し、まだ更新中である（久保田，2009）。ベニクラゲは、まさに人類の夢を具現する“不死のクラゲ”である。

一方、カイヤドリヒドラクラゲはその名の通り「貝に宿ったヒドラのクラゲ」だが、ベニクラゲとは逆に“早死のクラゲ”である。若いポリプは二枚貝の柔らかい体に付着して暮らし、暖期に次世代のプラヌラをつくるため、クラゲは貝の外に遊離する（Kubota, 2008）。この時の成熟クラゲは口や胃袋を退化させ、獲物を捕まえる触手も全く持たない。プラヌラをつくったらすぐに死亡してしまう有性生殖のみを機能する早死のクラゲなのである。



ベニクラゲの不死の進化は、クラゲ類中ではもとより全多細胞動物中でも特異的だが、カイヤドリヒドラクラゲのような早死する成熟クラゲの進化は様々な分類群で平行進化をおこしている。両者の生活史の相違がいかに生じたかについては謎のままである。

引用文献

Kubota, S. 2008. Constant timing of medusa release in bivalve-inhabiting hydrozoans of the genus *Eugymnanthea* (Hydrozoa: Leptomedusae: Eirenidae). *J. Mar. Biol. Ass. UK*, 88(8): 1607-1609.

久保田 信. 2009. 四度若返ったベニクラゲ *Turritopsis* sp. (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目). *日本生物地理学会会報*, 64 (印刷中).